

3. 国際共同研究

【採択時公表】

3- (1) 全体概要

本欄には、本事業を実施することにより、到達目標へどのように繋げていくのかを、2. に記載した実施体制等を含めて、全体的な概念を図等を使って分かりやすく示した上で、以下に続く3- (2) 研究目的及び到達目標、3- (3) 研究計画・方法の各項目について全体的な概要を簡潔にまとめて記述してください。(図と記述で1頁以内)
 なお、本欄(3- (1))は採択された場合、採択後本会HP等で公表される予定です。

〔研究目的及び到達目標〕

本研究の目的は、東部ヨーロッパ、および地中海地域を中心とするヨーロッパ境界地域の歴史的経験に焦点を当てながら、共同研究によって新たなヨーロッパ史の概念を構築することにある。研究グループは、国際的に高い水準で個別研究を行うと同時に、新たなヨーロッパ史学を構築する作業とのあいだを往還し、世界の学術コミュニティに資する歴史的ヨーロッパ像の形成を目指す。今回のプロジェクトを通じて、海外の研究協力機関と連携し、主に各国別、分野別に展開しているヨーロッパ史学研究を、「ヨーロッパ史」として全体的に把握すると同時に、世界史に結びつけるコンソーシアム的なプラットフォームを形成する。

境界地域として、ここでは異なる法規範、国家概念、知的・思想的・芸術的規範、交易圏などが交錯、輻輳し、混交する「汽水域」的な地域を考える。ヨーロッパでは特に地中海地域、東欧に境界地域としての性格が顕著だが、海洋植民地帝国の経験は、植民地帝国の中心部にも境界地域的な性格を与えることになった。境界地域では、さまざまな次元で摩擦、衝突が経験されたが、他方、多元的な文化混濁の経験を通じて、「ヨーロッパ」の形成に決定的な役割を果たし、またヨーロッパ史の来歴が本質的に問われる場所でもあった。本研究は、国際的・多言語的共同研究を通じて、境界地域研究の視点と方法からヨーロッパ史研究を再構築するものである。ここでは地中海、ヨーロッパ東南部におけるイスラーム世界との、またヨーロッパ東部におけるルーシ世界との接触、相互包含を問題として新たに焦点化する。また、美術史研究と歴史学研究を結びつけ、画像史料によって境界地域における歴史的経験の循環を明らかにする。

〔研究計画・方法〕

従来のヨーロッパ研究には、以下の三つの問題点がある。

1. 目的論的歴史像：ヨーロッパ史の発展は、普遍的な人類史的価値の実現を体現するものとして目的論的に構想されてきた。現在でも、この規範的歴史像がヨーロッパ研究に統合性を与えている。
2. 国民的学術研究の束：ヨーロッパでは19世紀の半ば以降、学術研究、特に人文社会科学研究は国民国家／国民社会のプロジェクトとして制度化、組織化され、それぞれに精緻な知の体系を築きあげてきた。その結果、ヨーロッパ研究は、国民的学知の束として構成され、比較研究の場合の比較の単位も、また交流史の場合の交流の拠点も、国民社会を前提とすることが多い。
3. 東と南の境界地域の排除：ヨーロッパ研究は西欧社会を中心に構想され、東と南の境界地域の経験はヨーロッパ研究に組み込まれることが少なかった。とりわけ、東欧についてそれは当てはまり、これは直接には冷戦期の知的配置の結果であるが、その起源は啓蒙期に生まれたヨーロッパ像にある。

境界地域研究の視点と方法とは以上の問題点を克服し、ヨーロッパ研究に新たな知的動因を与える可能性を持っている。第一に、境界地域研究の視点は、この地域の多元性と混濁性を明らかにし、近代の普遍的規範と地域の固有性が癒着した「ヨーロッパ世界」の輪郭を捉えなおすだろう。第二に、境界地域研究は、その本質からして多言語的・多文化的なアプローチを必要とするため、国民的学知を越境しながら、ヨーロッパ史学を再構築することになるだろう。このような前提の上に、イベリア半島から東欧、ウクライナ、ベラルーシやロシア西部までを有機的に包含するヨーロッパ史研究が構想される。

現在、ヨーロッパには、英語をコミュニケーション言語として、国民語によって編成されたアカデミーの体系とは別系統の研究体制を意識的につくりあげている特徴的な研究機関がいくつか存在する。本研究の連携研究機関はその代表的な機関である。ここでは各国、各言語圏で培われた多様な研究の伝統をバックグラウンドに持つ、多言語的な研究者たちが、トランス・ナショナルな共同研究を行い、豊かな成果をあげている。わが国の「西洋史研究」は、明治以来、独特の学知を蓄積し、日本の歴史学の発展に貢献する一方、国際的にも高い水準にある研究成果をあげてきた。これを自覚的・批判的に継承・発展させ、越境的なヨーロッパ研究に有機的に接合することによって、独自の貢献を果たすことができる。

本研究では、国際的に高い水準の研究成果を上げるために、若手の研究者を連携機関に派遣するだけでなく、以上のようなヨーロッパ研究のネットワークを持続的に発展させるために、連携機関とコンソーシアムを形成する。刊行される成果は、個別研究の基礎の上に、境界地域研究を踏まえた、理論的・方法論的に新たな「ヨーロッパ史」の全体史の概念を打ち出すものとなるだろう。成果刊行は、英語で行われる。

このような研究実践を通じて、わが国におけるヨーロッパ研究は、個別研究、研究者交流のみならず、制度的・恒常的に国際的・越境的な枠組みの中でダイナミックな展開を遂げるようになるだろう。国際的には、各国別に展開されているヨーロッパ史研究に新たな参照軸を与えることになるだろう。その成果は、EUの拡大・統合や、ウクライナ、ベラルーシなど境界地域の現在を理解するのに新たなパースペクティブを与えることになるだろう。

※本ページは増やしません。

(平成26年度公募)